

すばるを見よう

すばる（昴）をみつけられますか？

12月に入ると木星は頭上に煌々と輝き、東の空からはすばる（昴＝プレアデス星団）が昇ってきます。すばるをご存知ですか。谷村新司作詞作曲の「昴」に歌われたこの星は、日本では平安の時代から昴と呼ばれ、夜空に肉眼で見える星団として、親しまれてきました。

すまり、むりぶし、むつらぼしなどと日本の各地で呼び名がありますが、古くからこの星団が認知されてきたことがわかります。

じっさいの星空で、12月の午後7時ころには、東の空を見ると6個程度の星が群れをつくって輝いている様子をみつけることができます。

西洋でもこの星団は注目されており、ギリシャ神話ではプレアデス星団と呼ばれ、7人姉妹だといわれています。

夕空の東の空でぜひ、みつけてみましょう。双眼鏡などを使えば、さらに詳しく見ることもできます。



東の空から昇りくるすばるの姿（土浦市小町の館駐車場で撮影）

冬の星座をさがそう！

12月に入ると夜の星座観察は、とても寒くなってまいります。特にじっとしたまま長い時間、夜空を眺めていると昼間では考えられないほどの寒さを感じてしまいます。ジョギングやウォーキングといった身体を動かす行為と違い、寒さの中で静かに星を眺めるわけですから寒さは身にしみて感じます。

そうしたことから、短時間でも星空を眺めるために屋外に出るときは、手袋やマフラーをはじめ、帽子やダウンジャケットなどの防寒具を用意しましょう。

秋の星空では、1等星はひとつだけ、みなみのうお座のフォーマルハウトだけでしたが、冬の星座の中には7個もの1等星が輝いています。

1等星を順番に見ていきますと、はじめにオリオン座。オリオン座にはなんと1等星が2個もあり、それは赤く輝くベテルギウスと白く輝くリゲル。次に、おうし座にはオレンジ色に輝くアルデバラン。そして、ぎょしゃ座には黄色く輝くカペラ。さらにふたご座のポルクスとこいぬ座のプロキオン。最後に最も明るく輝いているおおいぬ座のシリウス。これらの明るい星を次々とみつけていきましょう。

南の低空にある1等星のりゅうこつ座のカノープスが見られることもありますから、運が良ければ8個もの1等星を見ることができるのです。

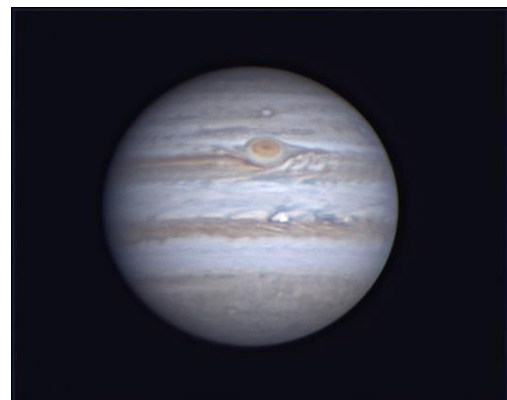
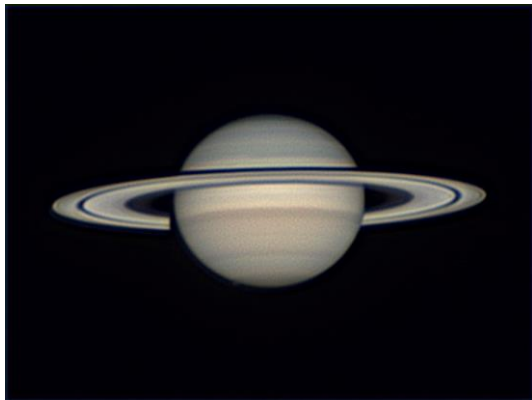
まず、1等星をみつけて、その星のある星座の形をさがすと星座を次々と覚えていけることでしよう。

今月も楽しめる土星と木星

12月に入ってから、土星は夕暮れの頃から南西の空に輝いていますので、すぐにみつけることができるでしょう。土星には環が見られるという他の星では見ることができない特徴を持っていますので、天体望遠鏡で眺めたくります。

木星は天高く、他のどの星よりも明るく輝いていますので、夜空を見上げた瞬間に発見することができます。

天体観望会などが付近でありましたら、ぜひ参加して観望を楽しみましょう。



先月も掲載しました土星と木星の写真です。土星は環の傾き具合が変化していて、来年は今よりも細くなり、再来年には、真横から眺めることになり、線状に見えることになります。

木星は小型の天体望遠鏡でも表面にしま模様が2本見られ、ときにはこの写真に見られるような目玉状の大赤斑が見られることもあります。さらに木星の周囲を回る衛星の内、明るい4個がとてよく見えます。この4個は発見者のガリレオ・ガリレイにちなんでガリレオ衛星と呼ばれています。

写真はいずれも川端孝幸氏の撮影です。

惑星情報

水星

今月の水星は、12月4日に東方最大離角を迎え、夕方の南西の空に見ることができます。低空にしか見えませんが、ぜひ探してみましょう。(明るさはマイナス0.7等級)

金星

明けの明星として、明け方の空に明るく輝いて見られます。10月24日に西方最大離角を迎えましたが、まだまだ東の空で明るく輝き、観測好機といえます。(−4.1等級)

火星

11月18日に合(ごう)を迎え、太陽の近くに見られますので、観察には不適です。

木星

土星

土星はみずがめ座の中にあり、木星ほどの明るさはありませんが、付近のみなみのうお座の1等星フォーマルハウトよりも明るく、観察の好機が続いています。(0.9等級)

12月の天文情報 (月齢は正午の値)

日	曜日	月齢	天文現象など
1	金	17.7	
2	土	18.7	
3	日	19.7	
4	月	20.7	水星が東方最大離角
5	火	21.7	下弦の月 月の距離が最遠
6	水	22.7	
7	木	23.7	大雪(二十四節気) 月が天の赤道を通過南半球へ
8	金	24.7	
9	土	25.7	細い月と金星がやや離れて並ぶ
10	日	26.7	細い月と金星が接近
11	月	27.7	
12	火	28.7	月が火星に最接近
13	水	0.1	新月
14	木	1.1	細い月と水星が並ぶ(夕空) 月の赤緯が最南
15	金	2.1	ふたご座流星群が極大
16	土	3.1	
17	日	4.1	月の距離が最近
18	月	5.1	月が土星と並ぶ
19	火	6.1	
20	水	7.1	上弦の月 月が天の赤道を通過、北半球へ
21	木	8.1	
22	金	9.1	冬至(二十四節気) 月と木星が接近
23	土	10.1	水星が内合
24	日	11.1	
25	月	12.1	
26	火	13.1	
27	水	14.1	満月 月の赤緯が最北
28	木	15.1	
29	金	16.1	
30	土	17.1	
31	日	18.1	

12月の中旬、午後9時ころの星空です。このコラムの中で使用する星図は、(株)アストロアーツの許諾を受け、天文ソフト「ステラナビゲータ12」を使用しています。